

対談者プロフィール

服部重敬氏

一般財団法人地域公共交通総合研究所研究員。1980年代に米国における路面電車の復活を見て以来、まちづくりにおける軌道系交通のあり方に関心をもち、世界の都市交通を調査・研究している。主な著書は「LRT一次世代型路面電車とまちづくり」(共著)、「名古屋市電」など。

小倉沙耶氏

鉄道アーティスト。幼少より、母の実家である長崎に帰省するため親子で寝台特急「さくら」に何度も乗車、鉄道の持つ旅情に惚れこみ、鉄道ファンとなる。USTREAM番組「UST 鉄道情報局」でのナビゲーターや明知鉄道観光大使として活動している。

「なごや交通まちづくりプラン」について

自動車が中心の「道路」を、人が主役の安心・安全で賑わいや憩いのある「みち」へと変え、「まち」を変えていく「みちまちづくり」を具体化するためのプランです。プランに位置づけられた「道路空間の主役転換」、「自動車の都心部への集中緩和」、「移動手段の多様化」の3つの分野の施策を一体的に進めることで、安心・安全な、環境にやさしい、賑わいのあるまちを創っていきます。

「なごや交通まちづくりプラン」の詳細につきましては、交通まちづくりHPをご覧ください。
<http://www.ido.city.nagoya.jp/machidukuri/>

交通まちづくり



「新たな路面公共交通」について

新たな路面公共交通の代表的な例としてLRTやBRTがあります。LRTやBRTは一度に多くの人を運ぶことができ（大量輸送）、時間通りに到着し（定時性）、早く移動することができ（速達性）、まちの風景などを見ながら快適に移動ができるなどの特長をもっています。



低床式車両 (LRV) の活用により乗り降りが容易になり、軌道があるため路線の存在が分かりやすいなどの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システム



バス専用レーンや優先レーンを走行するなどの面で高次の機能を備えたバスシステム